循環器内科 科長
鈴木　聡
すずき さとし

こんにちは
診察室です。

会津地域における目指すべき循環器診療について

はじめに

3年ほど前、私が当院で働き始めたころ、こちらのコラムに「心不全」をテーマに、症状や治療方法、日常生活の注意点などを掲載させていただきました。今回はこの3年間の経験を踏まえ、私が考える会津地域における循環器医療の目指すべき姿をお話ししたいと思います。

健診やかかりつけ医の重要性

心臓の疾患には様々ありますが、その存在に気付かず生活している方が多いことを経験します。高齢者に多い「大動脈弁狭窄症」などの弁膜症は心臓の聴診で容易にわかりますし、心電図や胸部X線写真といった簡便な検査でも心臓の疾患に気付くことができます。むくみや息切れなどの症状は心不全のサインです。普段の診察から多くのことがわかりますので、かかりつけの先生の診察や健康診断の受診を、ぜひ大切にしてください。

他診療科との連携

近年増加している「糖尿病」は、急性心筋梗塞や狭心症といった動脈硬化性疾患のみならず、心不全の発症にも関与することがわかってきています。糖尿病治療薬の中で、心不全に対して有効性が示されてきた薬剤も報告されてきています。重要なことは、どの科においても、より早期に治療が必要な患者さんを見つけ出すことであり、そのためにも我々医師同士の連携が欠かせません。

また我々は、心臓血管外科の先生方と定期的に「ハートチームカンファレンス」を開いています。心疾患を有する患者さんを対象に内科的または外科的な見解をディスカッションすることで、より適切な治療方針を提供できるよう努めています。

心不全チームカンファレンス

今や国民病ともいえる「心不全」は、ここ会津医療圏においても例外なく増えてきています。会津には様々な郷土料理と美味しい日本酒がありますが、塩分の濃い食事と水分の過剰摂取は心不全の大きな要因です。寒暖の差が大きく、車移動が多いために運動不足となることも良くありません。

高齢の入院患者さんは、治療により症状が改善しても、筋力の低下、いわゆる「廃用」が進んでしまうことで、入院前と同等の自宅生活ができなくなることがあります。元通りの生活を営むためには、早期に自宅生活に戻れるよう居住環境を整理し、退院後の生活の注意点をご理解いただくなど、ご家族の協力は不可欠です。自宅生活が難しい時は、介護支援などによる社会的サービスを受けたり、適切な施設への入所も検討する必要があります。

我々循環器内科では、定期的に「心不全チームカンファレンス」を開いており（写真）、医師以外に看護師（病棟・外来ともに）、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどが参加しています。患者さんは家族背景や居住地、経済的な問題など様々な事情を抱えており、そういった情報は医師以外のスタッフがよく知っています。それぞれの職種が持つ利点を活かすことで、より良い退院後生活が営めるよう支援しています。「医療」は退院したら終わりではなく、心臓疾患は一度罹患すると殆どが長期的な管理を要します。多くの医療従事者が関わって細かく目を向けることで、疾患への理解と管理、充実した生活に繋がっていけると考えています。

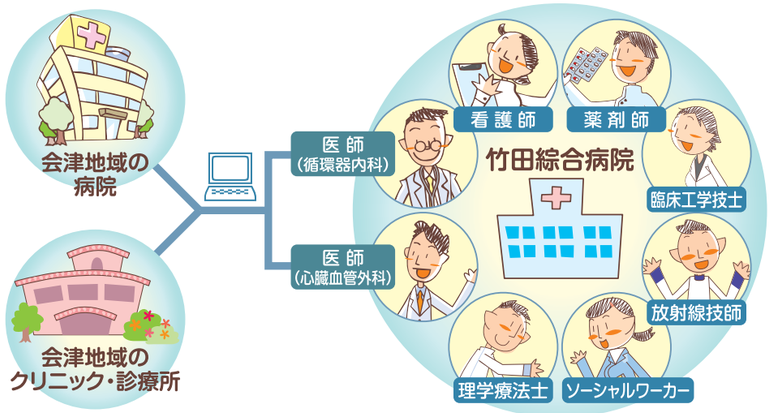
心不全チームカンファレンス

この「心不全チームカンファレンス」をまとめているのは医師ではなく、慢性心不全認定看護師の資格を持つ総合医療センター7階西病棟の湯田春世さんです。彼女のおかげで個々の患者さんごとに多くの情報を共有することができ、患者さん・ご家族への指導に繋がっています。実際に、一昨年まで毎月入退院を繰り返していた慢性心不全の患者さんが、昨年は数回の入院に留まっています。循環器疾患は医師だけで完結できるものではなく、こういったチームの協力が非常に大切だと考えています。

会津地域における連携

福島県の人口密度は147・2人／㎢と全国で下位10位以内にあり、会津・南会津医療圏に限ると51・2人／㎢と際立って低いのが現状です（2015年国勢調査から）。広域な面積を誇るうえに山間部が多いため、患者さんは交通アクセスに乏しい地域に分散して住んでいらっしゃいます。それぞれの地区は十分な医療体制が整っているとは言えず、地区の中核となる病院にも専門性に特化した医師が常勤しているわけではありません。急を要する患者さんは救急搬送していただいていますが、緊急性はないものの、診断や治療方針に悩む患者さんも多くいらっしゃると聞きます。これから迎える本格的な冬は、患者さんの足を鈍くさせますし、更にはこのコロナ禍において、患者さんのご家族が遠方にいるために当院に連れて来られないという事も聞きます。そこで我々は、それぞれの地区の中核病院の先生方とオンラインで繋いで「あいづ地域循環器相談窓口」を設けることとしました。ここでは紹介状を記載する必要もなく、個人情報も伏せた上で病状や診察所見などをご提示いただいてディスカッションできます。診断や治療の一助となれば幸いですし、その中で当院に紹介していただきたい患者さんを見つけ出せれば、診療効率の向上にも繋がります。

循環器診療は、治療薬やカテーテル技術など、どんどん進歩しています。我々は、最新の治療も常に学会や研究会などで学んでおりますので、それらをこの会津地域の皆様方に還元すべく、地域に密着した医療に今後も従事していきたいと考えています。



あいづ地域循環器相談窓口

「会津地域における目指すべき循環器診療」についてご説明します。